

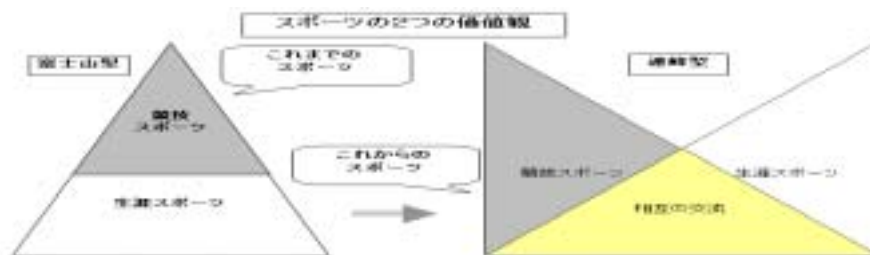
平成19年度 事業経過報告書

自 平成19年4月1日
至 平成20年3月31日

東京都中央区築地2丁目11番24号
(財)日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)

平成19年度事業経過報告

平成19年度事業計画は『競技スポーツ』『生涯スポーツ』両方の満足度を向上し、会員を増やすこと、年少者の普及と育成を目標とした。また、国際関係においてはアジア地域の活性化に協力し、日本のモーターサイクルスポーツの発展に繋がる方向の施策検討を重点項目とした。



具体的施策としては

年少者対策として2期目を迎える『MFJロードレースアカデミー』をツインリンクもてぎにて開催、加えて『MFJトライアルアカデミー』を茨城県真壁トライアル場で開校した。アジア国別対抗ロードレースを日本で開催し、また同選手権(ロードレース・モトクロス)に日本代表選手を派遣した。

女性対策として『MFJレディスロードレース』を筑波もてぎで2回開催した。

『スーパーモタード』『エンデュロ』の普及振興を行い、競技会の中で競技スポーツとして取り組む層と生涯スポーツとして取り組む層の両方の推進を図った。

社会的認知向上の為、CS放送/地上波放映の促進、WEBサイトの充実を図った。

競技ライセンス発行数は、97%と減少したが、エンジョイ会員は順調で前年度を上回り、トータルの会員数は横ばいであったが、生涯スポーツとして楽しむ層への移行が顕著となっている。

全体的な高齢化傾向や地方選手権参加者の減少傾向は変わらず、次代を担う年少者への普及活動と現会員の満足度向上、社会的認知の向上などに加えて、競技役員やピットクルーなど競技会を支える人材への対策の検討が急務である。

・ライセンス会員の登録状況

1. ライセンス会員数

- 1) 競技会員のライセンス取得者数は**20,965**名(昨年21,713名)で前年対比97%、
ライセンス発行枚数も**30,545**枚(昨年31,435枚)で97%と減少。
- 2) エンジョイ会員は**6,636**名(平成18年10月～平成19年9月)昨年度は5,896
名(平成17年10月～平成18年9月)で**113%**と増加。
- 3) 競技会員とエンジョイ会員の合計発行枚数では**37,181**名(昨年37,331名)
エンジョイ会員の比率が年々高くなって行く傾向が顕著。

2. 各種目の会員数

ロードレース **8,640**名(昨年9,200名)前年対比94%

地方選手権衰退・高齢化等で国内/フレッシュマンが大幅に減少した。

種目	区分	06年度	07年度	対比
ロードレース	国際	921	922	100%
	国内	5360	4979	93%
	フレッシュマン	2878	2698	94%
	ジュニア	41	41	100%
	計	9200	8640	94%

モトクロス **2,743**名(昨年2,865名)前年対比96%

減少傾向に歯止めがかからず。高齢化、都市近郊の会場の減少等要因

種目	区分	06年度	07年度	対比
モトクロス	国際A級	188	178	95%
	国際B級	604	568	94%
	国内A級	398	370	93%
	国内B級	977	915	94%
	ジュニア	532	577	108%
	PC	166	135	81%
	計	2865	2743	96%

トライアル **1,736**名(昨年1,754名)前年対比99%

安定しているが、高齢化は顕著。ジュニアが増加

種目	区分	06年度	07年度	対比
トライアル	国際A級	125	124	99%
	国際B級	407	396	97%
	国内A級	450	444	99%
	国内B級	757	751	99%
	ジュニア	17	21	124%
	計	1756	1736	99%

スノーモビル 252名（前年244名）前年対比103%

新潟大会復活で若干増加した。

種目	区分	06年度	07年度	対比
スノーモビル	A級	102	104	102%
	B級	129	127	98%
	ジュニア	13	21	162%
	計	244	252	103%

ドラッグレース 83名（前年87名）前年対比95%

種目	区分	06年度	07年度	対比
ドラッグレース	A級	44	41	93%
	B級	43	42	98%
	計	87	83	95%

ダートトラック 34名（前年39名）前年対比87%

種目	06年度	07年度	対比
ダートトラック	39	34	87%

スーパーモタード 537名（前年545名）前年対比99%

コスト上昇、技量格差拡大等でやや頭打ち傾向。

種目	区分	06年度	07年度	対比
スーパーモタード	A級	184	224	122%
	B級	361	313	87%
	計	545	537	99%

エンデューロ 100名（前年100名）前年対比100%

大会数が限られている為、伸び悩んでいる。

種目	06年度	07年度	対比
エンデューロ	100	100	100%

ピットクルー 10,662名（前年10,900名）前年対比98%

種目	06年度	07年度	対比
ピットクルー	10900	10662	98%

競技役員 5,758名（前年5,699名）前年対比101%

種目	06年度	07年度	対比
役員・講師	5699	5758	101%

・モーターサイクルスポーツ事業

1) MFJ主催および共催競技会・行事の開催状況

平成19年度中にMFJ主催並びに共催競技会を5大会開催。また、日本二輪車協会（NMCA）と共催にて「少年少女モーターサイクルスポーツスクール」を文部科学省・内閣府後援で29回開催。734組1,468名。（06年：34回/729組/1,458名）

2) MFJ 公認・承認競技会（講習会含む）の都道府県別申請状況

- 平成 19 年 1 月～11 月まで全国で 676 大会開催された。
- 公認競技会が減少し、承認競技会が増加傾向。

支部	公認競技会										承認競技会										合計	中止	開催数	
	R D	M X	T R	S N	S M	D R	E D	講習 会	走行 会	小計	R D	M B	MX	T R	S N	S M	D T	E D	S T	行事				小計
北海道	4	14	8	3				11		40	1	1			2			7			11	51	0	51
東北	6	11	17	1	7		1	26		69	4	5	11	7				5			32	101	9	92
関東	16	27	25	2	5	3		35	38	151	7	10		8	2		3	9		2	41	192	9	183
中部	9	10	14		8			10	15	66	8	2	1	7				5			23	89	0	89
近畿		12	14		6			19	1	52	2	8	6	11				5			32	84	3	81
中国	8	11	19		6			26	1	71	7	8	3	1		1		5			25	96	11	85
四国		8	8					7		23		3	2								5	28	0	28
九州	6	11	10		14			16		57	3	3	3			2		1			12	69	2	67
合計	49	104	115	6	46	3	1	150	55	529	32	40	26	34	4	3	3	37	0	2	181	710	34	676
前年	59	108	124	5	36	3		156	59	550	29	36	20	36	5	4	3	35	1	2	171	720	44	677

3) 競技会開催状況

(1) ロードレース

世界選手権/特別競技会

格式	開催日	大会名	観客数	
			06年	07年
世界選手権	7月26日～29日	ココロ・ゼロ 鈴鹿8時間耐久ロードレース	139,500	147,500
	9月21日～23日	Moto-GP A-STYLE 日本グランプリ	96,294	90,310
国際競技会	6月9日～10日	Road to 8hours 鈴鹿300km	25,000	12,500
特別競技会	8月18日～19日	もてぎオープン7時間耐久ロードレース	12,100	8600

全日本選手権

JSB にトップライダーチームが集中し、観客数は増加。参加数では GP-MONO が大幅増

	開催日	会場	観客数	JSB	ST600	GP250	GP125	GP-M	計
第1戦	4月1日	もてぎ	15,100	40	50	27	50	38	205
第2戦	4月15日	鈴鹿2&4	45,500	63					63
第3戦	5月13日	筑波	16,800	38	50	30	52	44	214
第4戦	5月27日	オートポリス	35,370	44	48	26	40	39	197
第5戦	8月26日	SUGO	13,500	37	54	26	51	41	209
第6戦	9月30日	岡山	20,200	51	51	31	50	47	230
第7戦	10月21日	鈴鹿 MFJ-GP	30,000	32	29	21	27	30	139
		合計	176,470	305	282	161	270	239	1257
		1大会平均	25,210	44	47	27	45	40	180
		前年対比	108%	92%	85%	96%	96%	160%	99%

チャレンジカップ選手権

東日本チャレンジ(SUGO・筑波・もてぎ・FISCO)

大会数	総参加台数	GP125	GP250	JSB1000	ST600
8	395	116	65	111	103
1大会平均	49	15	11	14	13
前年対比	96%	107%	85%	93%	81%

ウエストチャレンジ 鈴鹿・岡山)

大会数	総参加台数	GP125	GP250	JSB1000	ST600
7	403	151	59	82	111
1大会平均	58	22	10	21	28
前年対比	112%	76%	71%	124%	100%

サウスチャレンジ(オートホリス・HSR九州)

大会数	総参加台数	GP125	GP250	JSB1000	ST600
4	125	31	16	46	32
1大会平均	31	8	4	15	8
前年対比	107%	57%	67%	300%	80%

地方選手権・承認競技会

ロードレース地方選手権・承認競技会

施設	公認競技会		承認競技会	
	大会数	参加台数	大会数	参加台数
十勝	4	210	1	26
SUGO	6	534	2	236
筑波	4	851	5	854
もてぎ	3	640	0	0
FISCO	3	161	0	0
鈴鹿	5	1027	5	1127
岡山	6	923	4	410
九州	4	264	3	222
合計	35	4610	20	2875
1大会平均		131	1大会平均	143

承認ミニバイクレース

支部	承認ミニバイク	
	大会数	参加人数
北海道	1	55
東北	5	600
関東	9	2488
中部	4	585
近畿	4	261
中国	7	224
四国	3	78
九州	2	32
合計	35	4323
1大会平均		124

(2) モトクロス

世界選手権

格式	開催日	大会名	観客数	
			06年	07年
世界選手権	5月26日～27日	ETクロス世界選手権日本グランプリ	232,600	22,700

全日本選手権

	開催日	場所	観客数	台数	国際B級		国際A級		レディ ス	チャイ ルト	J85	他
					IB2	Open	IA 1	IA-2				
第1戦	3月25日	SUGO	10,400	380	113	105	35	53	55	19		
第2戦	4月8日	近畿	14,574	440	108	102	38	55	52	28	28	29
第3戦	4月29日	関東	16,700	467	99	92	36	58	52	42	25	63
第4戦	5月13日	中国	11,500	372	87	84	35	56	49	29	32	
第5戦	6月10日	九州	11,200	316	67	65	32	53	37	22	40	
第6戦	7月8日	北海道	11,500	205	49	46	28	42	23	9	8	
第7戦	7月22日	東北	7,000	361	98	90	33	55	53	32		
第8戦	9月9日	近畿	15,862	462	118	113	34	57	60	29	30	21
第9戦	10月7日	中国	11,500	375	87	81	33	52	51	39	32	
第10戦	10月21日	MFJGP	11,200	482	122	118	37	54	65	26	29	31
		合計	121,436	3860	948	896	341	535	497	275	224	144
		平均	12,144	386	95	90	34	54	50	28	28	36
		対比	92%	93%	94%	93%	94%	95%	104%	108%	108%	

モトクロス全国大会：中国地区のグリーンパーク弘楽園にて開催し、248台が参加した。

地方競技会

	大会数	総参加台 数	平均台数	前年対比
地方選手権	72	12327	171	102%
県大会	17	516	30	75%
Total	89	12843	144	103%

(3) トライアル

世界選手権

格式	開催日	大会名	観客数	
			06年	07年
世界選手権	6月2日～3日	トライアル世界選手権ウイタ-日本GP	16,500	16,000

全日本選手権

	開催日	場所	観客数	台数	IB	IA	IA S
第1戦	3月11日	関東	2,000	122	65	48	9
第2戦	3月25日	九州	2,000	75	38	29	8
第3戦	4月30日	新潟	1,600	116	66	42	8
第4戦	5月27日	近畿	2,536	133	82	43	8
第5戦	8月5日	北海道	1,300	63	31	23	9
第6戦	9月2日	東北	1,100	117	38	33	8
第7戦	9月16日	中国	2,700	94	57	30	7
第8戦	10月14日	中部	2,200	129	72	48	9
		合計	15,436	849	449	296	66
		1大会平均	1,930	106	56	37	8
		前年対比	112%	91%	93%	88%	80%

地方選手権

地方選手権	65	4831	74	103%
県大会	36	1208	34	131%
Total	101	6039	60	109%

(4) スノーモビル

	開催地	開催日	観客数	台数	B級			A級				併催クラス			
					S1	S2	S3	SC	S1	S2	S3	J	E	L/S	
第1戦	湯沢中里	1/21	5,600	167	16	19	20	18	21	15	16	11	0	31	
第2戦	長野	2/4	雪不足で中止												
第3戦	わっさむ	2/11	1,200	147	21	19	24	24	22	13	18	6			
第4戦	土別	2/18	1,200	144	20	16	24	22	25	17	20	0	0		
第5戦	青森	2/25	雪不足で中止												
第6戦	わっさむ	3/4	1,400	148	20	15	24	22	25	15	21	6	0		
年間合計(4戦)					606	77	69	92	86	93	60	75	23	0	31
1大会平均(4戦)					152	19	17	23	22	23	15	19	6	0	8

(5) ドラッグレース

	開催日	場所	台数	全日本	地方		併催	
				PB	SBEX	SB	SD	SSB
第1戦	5月6日	鈴鹿	雨天中止					
第2戦	7月15日	もてぎ	雨天中止					
第3戦	10月14日	もてぎ	51	13	8	11	9	10
第4戦	11月18日	三宅	20	9				11
合計			71	22				
1大会平均			35	11				
前年対比			67%	88%				

(6) スーパーモタード

moto1 オールスターズ

	開催日	場所	台数	moto 1	moto 2	Unlimited	併催
第1戦	4月22日	関東	71	32	28	5	6
第2戦	6月3日	中国	87	31	26	8	22
第3戦	7月1日	東北	59	31	24	4	
第4戦	8月19日	東北	64	33	27	4	
第5戦	9月16日	中部	73	30	32	8	3
第6戦	10月7日	九州	49	24	19	6	
第7戦	10月28日	関東	63	26	22	6	9
合計			466	207	178	41	40
平均			67	30	25	6	
対比			73%	107%	100%	60%	

MOT01 IIA (地方選手権) を下記7 IIA で開催。

エリア	大会数	総台数	平均	
東北エリア	5	114	23	
関東エリア	5	246	62	
中部エリア	6	268	45	
近畿エリア	6	207	35	
中国エリア	5	193	39	
九州エリア	5	166	33	
沖縄エリア	7	165	24	
		39	1359	35

(7) エンデューロ

	開催日	場所	台数	全日本	その他
第1戦	4月22日	東北	176	37	139
第2戦	7月29日	北海道	74	24	50
第3戦	9月16日	九州	75	23	52
			合計	84	241
			1大会平均	28	80
			前年対比	121%	100%
				100%	131%

4) 代表選手派遣事業

(1) トクロス・オブ・ネーションズ（国別対抗世界選手権）

開催日：9月22日/23日 開催地：アメリカ合衆国・マリランド州・ハッズクリーク

参加国：31カ国 観客数：75,000名

日本代表チーム（熱田孝高/成田亮/増田一将） 結果：7位（昨年12位）

(2) トライアル・デ・マシオン（国別対抗世界選手権）

開催日：9月29日/9月30日 開催地：フランス・マシオン 参加国：19カ国

代表チーム：（藤波貴久/黒山健一/小川友幸/野崎史高） 結果2位（昨年3位）

(3) アジア・ネーションズ・オブ・ロードレーシング（アジア国別対抗戦）

	開催日	開催国	参加国	順位	代表選手	
第1戦	5月13日	日本	9カ国	4位	波平伊織	東盾吾
第2戦	8月5日	インドネシア	6カ国	4位	中木亮輔	東盾吾
第3戦	8月19日	インドネシア	7カ国	2位	中木亮輔	東盾吾
第4戦	11月18日	中国	6カ国	4位	中木亮輔	東盾吾
シリーズランキングは2位						

(4) アジア・ネーションズ・オブ・トクロス（アジア国別対抗戦）

開催日：11月3日/4日 開催国：中国 参加10ヶ国

代表チーム：沼田誠司・大塚忠和 結果：優勝

(5) ISDE(国際6日間エンデューロ)

開催日：11月12日～17日 開催国：チリ 参加20カ国 結果：12位

代表チーム：鈴木健二・博田巖・内山裕太郎・近藤有介・小菅浩司・池田智泰

5) 全日本選手権ランキング表彰式典

全日本ランキング表彰式典を平成19年12月22日（土）に東京・品川のインターシティホールにて開催予定。

6) 人材育成

レスキュー講習会

モータースポーツライセンス機構（LSO）のセミナーを実施し、レスキュー体制の強化を図った。

1月21日	中部	49名
4月21日	九州	21名
12月1日	近畿	22名
12月15日	関東	42名

インストラクター養成セミナー

ライダー養成にあたる人材育成を目的に、レース専門分野ならびに、大学の講師によるスポーツコーチング、熱中症予防に関する講義を行い資格認定した。

- ・ 6月23日 東京・日本印刷会館研修室 受講者39名（内新規15名）

7) ドーピングコントロール

ドーピングコントロールを下記のように実施し、違反者は無かった。

種目	格式	実施日	場所	区分	検査数
ロードレース	全日本	5月27日	オートポリス	MFJ事業	3
	世界選手権	7月29日	鈴鹿	FIM・ANADO	6
モトクロス	全日本	7月8日	和寒	MFJ事業	3
				文科省委託	3
トライアル	全日本	9月16日	山口	MFJ事業	3

補助金事業

日本小型自動車振興会補助金事業：「国内競技規則書」

モーターサイクルスポーツの普及振興

1) 普及強化事業

MFJロードレースアカデミー in Motegi

- ・ 主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会
- ・ 会場：栃木県・ツインリンクもてぎ
- ・ 対象：12歳～15歳 受講者：9名 期間：2007年4月～12月
- ・ 車両：CBR150 NS50 NSR-mini 受講料：30万円 ・ 協賛企業：25社

MFJトライアルアカデミー

主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会

会場：茨城県・真壁トライアルランド

対象：ジュニア：9歳～15歳 受講者：9名 女性：

期間：2007年6月～10月

2) 広報活動

MFJの広報機関誌である月刊「ライディング」及び別冊MFJ国内競技規則書を年間累計 **200,550冊** (昨年 207,150冊) 発行。機関誌とホームページの情報内容の仕分けを行い、速報性に限界のある機関誌の回数を減らし年間8回とした。ライセンス会員、特別会員、賛助会員、ネットワークショップ及び報道機関などに広く配布し、MFJ活動の広報に努めた。

MFJ オフィシャルホームページは本年4月1日より11月末日まで **725,936** 件/月平均 **90,742** 件 (昨年 666,390 件/月平均 83,299 件) のアクセスを得た。

(一般的には1万件以上はアクセスが多いページの基準とされている。)

CS放送ロックオンとリンクし、全日本選手権ロードレースの動画配信を行った。また、同3種目の全日本選手権の結果速報・レポート・写真を掲載し内容充実と速報性の向上を行った。

主にネットワークショップに向けてのイベント情報をFAX通信にて毎月1回(15日発行)配信した。年間12回配信

ライセンス会員募集のために二輪専門雑誌の広告掲載並びに募集パンフレットを作成し、配布した。(来年3月までに9媒体・38回予定)

ネットワークショップを中心に掲出するポスターカレンダー(支部ごとの地域イベントを中心とした内容)を作成し、広く配布予定。

全日本ロードレース選手権大会のプロモーション活動を行うMFJプロモーション委員会において、シリーズ告知等広報宣伝活動を展開した。

- ・TVはCS放送スポーツ専門チャンネル Gaora にて番組名『モトバトル』で全日本ロードレース並びにモトクロス全戦2時間番組を合計35回放映。また地上波で『モトバトル』30分ダイジェスト番組(ロードレースのみ)を関東6局(東京/埼玉/神奈川/千葉/群馬/栃木)を中心に近畿2局(大阪/京都)中部2局(静岡/三重)九州4局(熊本/鹿児島/大分/福岡)全国ローカル14局で80回放映。
- ・専用ホームページ Superbike.jp にて各大会の告知を中心に情報発信した。
- ・紙媒体では東京中日スポーツにてシリーズ開幕の告知記事広告を出稿した。
- ・その他、ネットワークショップ向けの観戦ガイドブック(2回)の配布や割引企画の実施、来場者向けのサービス活動・ファンクラブの運営等を展開した。

東京/大阪で開催されたモーターサイクルショーにて MFJ ブースを展開し、競技会の広報宣伝や会員募集に努めた。

- ・ 第 24 回大阪モーターサイクルショー

日時：3 月 23 日～25 日 場所：インテックス大阪

入場者数：44,548 名（3 日間合計） 昨年 40,748 名

- ・ 第 34 回東京モーターサイクルショー

日時：3 月 30 日～4 月 1 日 場所：東京ビックサイト

入場者数：91,267 名（3 日間合計） 昨年 85,748 名

．地方組織

1．支部長・事務局長会議

支部との情報共有の為、支部長/事務局長会議を定期的に行なった。

2．ネットワークショップ

ネットワークショップ加盟推進を全国 400 店舗目標に支部ごとに数値目標を立てて加入活動を行なったが、**304 店舗（昨年 306 店）**に留まった。

支部	会員数			競技会			全日本選手権						Nショップ	HP	表彰式
	ライセンス	エンジン	計	公認	承認	計	RD	MX	TR	SN	SM	ED			
北海道支部	1242	355	1597	40	11	51	0	1	1	3	0	1	10		最終戦時
東北支部	2575	704	3279	69	32	101	1	3	1	1	2	1	27		最終戦時
関東支部	11454	2621	14075	151	41	192	2	1	2	2	2	0	106		
中部支部	5234	686	5920	66	23	89	2	0	1	0	1	0	42		
近畿支部	5247	917	6164	52	32	84	0	2	1	0	0	0	52		
中国支部	1801	557	2358	71	25	96	1	2	1	0	1	0	18		
四国支部	824	145	969	23	5	28	0	0	0	0	0	0	13		最終戦時
九州支部	2166	444	2610	57	12	69	1	1	1	0	1	1	36		

．国際交流

世界及びアジアにおける MFJ の役割として、選手並びに事務局員を派遣することにより国際交流を図り、MFJ 並びにアジア地域における人材育成とモーターサイクル普及に関する提案を行なった。

1) 5 月、世界選手権ロードレース開催のための FIM ロードレースセミナーを開催した。

2) 5 月、アジアネーションズ・オブ・ロードレース第 1 戦を全日本ロードレース筑波大会時に海外より 9 カ国、日本代表を含め 10 カ国により開催した。

- 3) 6月、熊本にてFIM エンデューロセミナーを開催。
- 4) 7月、FIM 会長以下幹部が来日し、鈴鹿 8 耐時に日本メーカーとの会合を行った。
- 5) 8月、アジアネーションズ・オブ・ロードレース第2戦、第3戦インドネシア大会に日本代表選手並びに事務局員を派遣した。
- 6) 8月、中国におけるモトクロススクールにインストラクター及び中垣常務を派遣した。
- 7) 8月、世界選手権モト GP 開催のための FIM 査察に立会いとして事務局員を派遣。
- 8) 9月、米国にて開催されたモトクロス・オブ・ネーションズ並びにマン島にて開催されたトライアル・デ・ナシオンに日本チームを派遣した。
- 9) 10月、ジュネーブにて開催された FIM 総会に杉本ロードレース委員長、鶴見技術委員長並びに事務局員を派遣した。
- 10) 11月、アジアネーションズ・オブ・モトクロス及びアジアネーションズ・オブ・ロードレース最終戦中国大会に日本代表選手並びに事務局員を派遣した。
- 11) 11月、南米チリにて開催された ISDE に日本代表チームを派遣した。
- 12) 12月、タイにて開催されるオールジャパンスターズ・スーパークロスに日本選手(6名)並びに事務局員を派遣。
- 13) 2008年1月、FIM 車両インスペクション立会いとして事務局員を派遣。
- 14) 2008年1月、インドネシア・バリ島にて開催される UAM(アジアモーターサイクルユニオン)総会に事務局員を派遣。
 - ・ アジアネーションズ(ロードレース、モトクロス)のあり方についての提案
 - ・ 2009年アジアモーターサイクル・ワールドカップ開催提案
- 15) 2008年2月、FIM 春季ジュネーブ会議に杉本ロードレース委員長並びに事務局員を派遣。
- 16) 2008年3月、世界選手権開催のための FIM 環境セミナーを開催。

・スポーツ傷害基金報告

共済会からスポーツ傷害基金への移行を行い、年間の運営状況は下記である。

種目	掛金口数	支払い件数	死亡	後遺症
ロードレース	9,466	71	1	6
ミニロード	331	1	0	0
ドラッグレース	81	0	0	0
ミニバイク	7,401	35	0	0
スーパーモタード	1,473	15	0	2
スーパーモタード小排気量	1,489	0	0	0
モトクロス	7,235	88	0	1
ミニモトクロス	4,921	26	0	0
トライアル	8,271	14	0	1
エンデュロ	4,690	18	0	0
ダートトラック	33	0	0	0
スノーモビル	483	3	0	1
RDスクール・走行会	751	0	0	0
走行会	77	0	0	0
海外共済会	51	0	0	0
ピットクルー	10,355	0	0	0
	57,108	271	1	11

・諸会議の開催状況

	委員会	2007年										2008年	計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	3月		
総務関係	理事会		22日							18日		2	
	評議員会		22日							18日		2	
	運営・財務委員会		15日							5日		2	
	次部長・事務部長会議								19日		26日	1	
	スポーツ傷害基金委員会	26日							13日			2	
スポーツ関係	中央審判委員会											0	
	競技審判委員会											0	
	スポーツ環境整備委員会						7日	11日				2	
	中央スポーツ委員会				19日				26日			2	
	プロモーション委員会				4日		13日		7日	11日		4	
	控訴委員会	24日		26日			18日	15日	22日			5	
	ロードレース委員会			20日	5日			17日				4	
	モトクロス委員会				13日				19日			2	
	トライアル委員会			29日					8日			2	
	スノーモビル委員会			22日								1	
	ドラッグレース部会								14日			1	
	スーパーモタード部会							2日	12日			2	
	エンデュロ部会				12日			25日				2	
	タイヤ部会											0	
競技員訓練部会	2日						5日				2		
臨時会議	RD/技術者同会議								6日		1		
合計		3	3	4	5	0	3	7	9	5	39		

以上